教育機関等と連携した「みどりの食料システム戦略」の理解促進

教育機関及び大型商業施設と連携し、★３つを獲得した米等の販売で「みどりの食料システム戦略」の取組を消費者にＰＲ

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略（温室効果ガス削減「見える化」実証事業）

○ きっかけ・背景、課題の把握

愛知県立南陽高等学校は、総合学科でありながら授業「農業と生活」で農業生産法人の栽培指導を受け、環境にやさしいお米の栽培・販売に取り組んでいる。また、部活動「Nanyo Company部」の取組で、生産者等から提供された規格外野菜を使用した商品を開発していることから、令和５年６月に意見交換を実施し、温室効果ガス削減「見える化」実証事業への参加を喚起。

○ 取組の内容

同校が実証事業に取り組む意向を示したことから、令和５年９月にオンライン説明会を開催。10月には同校が栽培した米と、同校に規格外品を提供している生産者の野菜が「見える化」実証事業で★３つを獲得。

これを受けて同校と連携して「見える化」ポスター等を作成し、11月には大型商業施設の協力を得てイベントを開催し、米と規格外野菜を使用して開発した商品に「見える化」ラベルを表示して販売実証を実施。

同イベントには当拠点も参加し、生徒とともに「みどりの食料システム戦略」及び「見える化」のチラシ配布を行う等のＰＲ活動を実施。

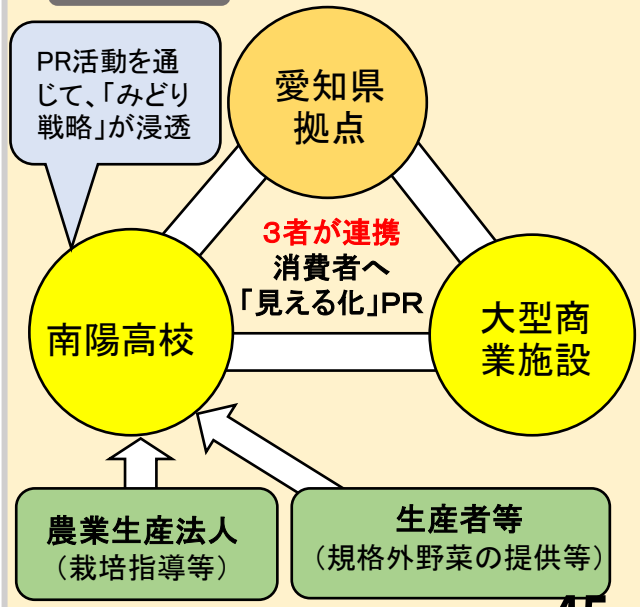
○ 効果・成果、今後の方向性

当拠点、将来を担う高校生及び集客力が見込まれる大型商業施設が連携して「見える化」の販売実証に取り組んだことにより、「みどりの食料システム戦略」の教育現場及び消費者双方への周知と合わせ、同校の環境にやさしい取組（脱プラスチック被覆肥料等）の付加価値を向上。また、この活動を通じて同戦略が生徒にも浸透。今後も同校等と連携し、消費者に向けて、環境負荷低減の取組への理解を促進する予定。

「見える化」で★3つを獲得した米

イオンモール名古屋茶屋店で「見える化」の販売実証に取り組む生徒

体制図



ソーシャルメディアを活用し、農福連携の取組を農業者等へ情報発信

農福連携の推進に向け、拠点内に「農福連携チーム」を立ち上げ、県拠点独自でパンフレットやYouTube動画を作成し、県・市町村やＪＡと連携して農業者等へ情報発信

○ 施策分類

農福連携

（農福連携等に取り組む主体を令和６年度までに新たに3,000創出）

○ きっかけ・背景、課題の把握

福祉事業者や農業者等と意見交換において、農福連携の取組が「知られていない」ことを実感。当拠点内に地区担当の垣根を越えて「農福連携チーム」を立ち上げ、農業者や一般消費者向けのパンフレットやYouTube動画を作成し、県・市町村等も巻き込みながら情報発信に取り組むことを立案。

○ 取組の内容

パンフレットは、農業者が農福連携に取り組むきっかけとなるよう県とも情報共有を図りながら作成。雇用に対する農業者の心理的不安を払拭できる内容とし、県内全市町村及びＪＡと連携して農業者へ配布。（配布枚数：54市町村で1,080枚、20JAで600枚）

YouTube動画は、福祉事業所及びスーパーに動画作成の協力を依頼し、一般消費者に農福連携の取組を「知ってもらえる」きっかけとなるよう当局WEBサイト等を活用し広く情報発信。（動画再生回数：1,781回）

○ 効果、今後の方向性

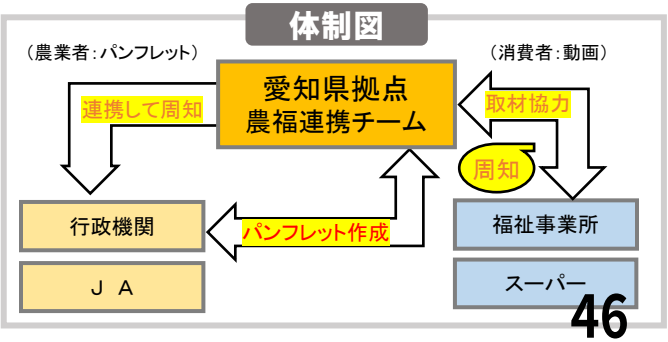
パンフレット及びYouTube動画を活用した周知活動により、愛知県の農福連携相談窓口には「おためし農福」に関する問合せや相談等が増加。今後は取組を継続することで「ノウフクJAS」の認知度を高め、認証増加に向けて理解を醸成。

農業者向け農福連携パンフレット

農福連携作業の様子

当拠点作成BUZZ MAFF動画

動画撮影の様子



Ｚ世代と連携したスマート農業による地域課題の解決

デジタル技術を駆使しスマート農業に力をいれている鳥羽商船高等専門学校と連携し、地域課題の解決に取り組む

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略、新技術

○ きっかけ・背景、課題の把握

Ｚ世代へのみどり戦略の周知や地域での労働力不足が喫緊の課題となっている中、人工知能や深層学習等のデジタル技術を駆使し、スマート農業に注力している鳥羽商船高等専門学校と意見交換を行い、農業が直面する課題を知ってもらうとともに地域課題の解決を模索。

○ 取組の内容

令和５年８月４日、本局と連携し「今後20年を見据えた農業の課題解決」というタイトルで、労働力不足や高齢化への対応について、グループ討議を実施。チャットGPTやAIの活用など、若い世代からの目線で専門知識を活用したさまざまなアイデアが出された。

令和５年９月20日、同校の柑橘向けAIプレ選果機と軽トラ・アタッチメント式AI防除機の現地調査と生産現場への導入を見据えた課題等に関する意見交換を実施。意見交換では品種改良の分野まで話題が広がり、出席者からは「AIを活用した遺伝子解析技術を応用すれば、育種期間を短縮できるのでは。」、「ニーズの強い無核変異個体（種なし果実）の作出を期待する。」等の発言があった。

○ 効果・成果、今後の方向性

学生からは、意見交換を通じ「地域農業が直面している課題をより直視することができ、今後の研究に生かせる」と好評。

同校との取組を継続することで連携を深化させ、様々な品目の生産者との交流機会を増やすことにより、生産者の課題解決を推進。

令和５年８月４日に開催した意見交換の様子

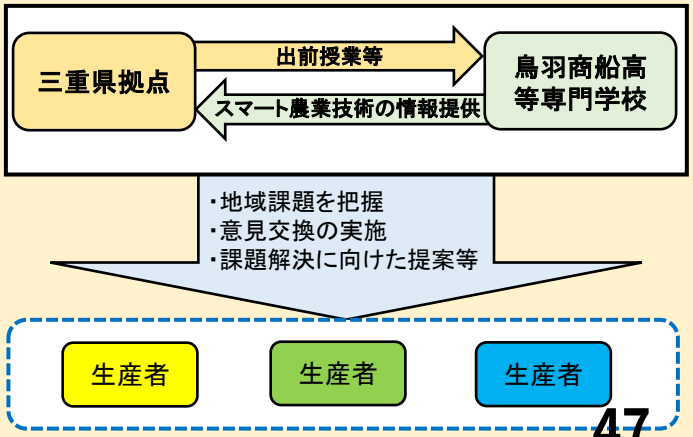
AIプレ選果機

AI農薬散布機

意見交換の様子

令和５年９月20日に開催した現地調査と意見交換の様子

体制図



県拠点と日本政策金融公庫との若手勉強会から発展した事業者へのサポート

県拠点と日本政策金融公庫との勉強会を通じ、若手職員と公庫が連携して事業者をサポート

○ 施策分類

能力向上

○ きっかけ・背景、課題の把握

県拠点の若手職員は、制度融資の知識に乏しく、生産者から問い合わせがあっても、十分な回答ができない状況。

他方、日本政策金融公庫津支店は、国の補助事業等の知識を深めたいとの要望を持っていた。

双方の知識不足を補う形で令和５年度から、若手職員による勉強会をスタート。

○ 取組の内容

第１回（５月23日）：県内農業の概要（拠点）、津支店農林水産事業の取組概要（公庫）

第２回（８月30日）：耕畜連携（拠点）、制度資金（公庫）

第３回（11月７日）：制度資金について相談したい事業者に対して、公庫職員と訪問し、活用可能な事業を紹介するなどサポート。

○ 効果・成果、今後の方向性

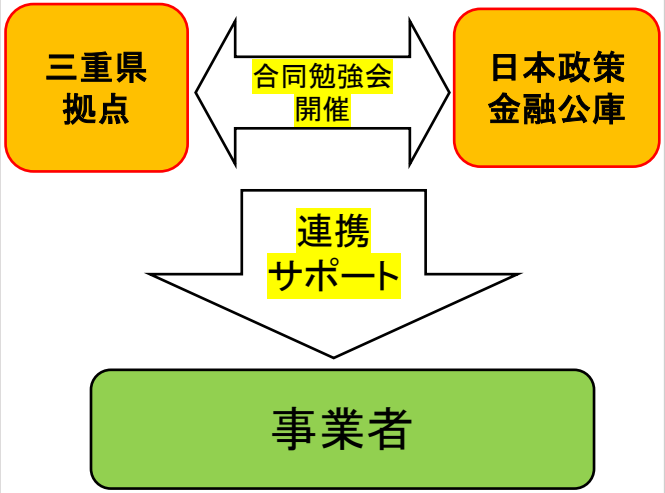
事業者からは「事業計画の参考になった」、公庫の若手職員からは「直接、意欲のある生産者と意見交換ができて良かった。今後も同様に取り組みたい」との声があり、連携サポートは高評価。

若手職員による勉強会を継続するとともに、今後も日本政策金融公庫と連携し、拠点として従来充分にフォローできなかった分野から事業者を選定してサポート。

若手勉強会の様子

事業者への説明の様子

体制図



知って！消費者にみどりの食料システム戦略をPR

消費者へみどりの食料システム戦略の理解醸成を図るため、生活協同組合コープしがのイベントに参加し、パネル展示等により組合員にＰＲ。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

コープしがへ施策の周知、消費者の声の聴取を目的とした意見交換において、組合員を対象とした「コープしが商品大交流会」が４年ぶりに開催されるとの情報を入手。当拠点も消費者へみどりの食料システム戦略の理解醸成を図るために参加。

○ 取組の内容

２回開催された商品大交流会には、家族連れでの参加も多く、組合員約2,000名が来場。

当拠点のブースでは、みどりの食料システム戦略の概要、生産、加工・流通、調達、消費の各分野別の取組内容、身近な豚汁を例としてできることをイラスト等でまとめたパネルを展示。

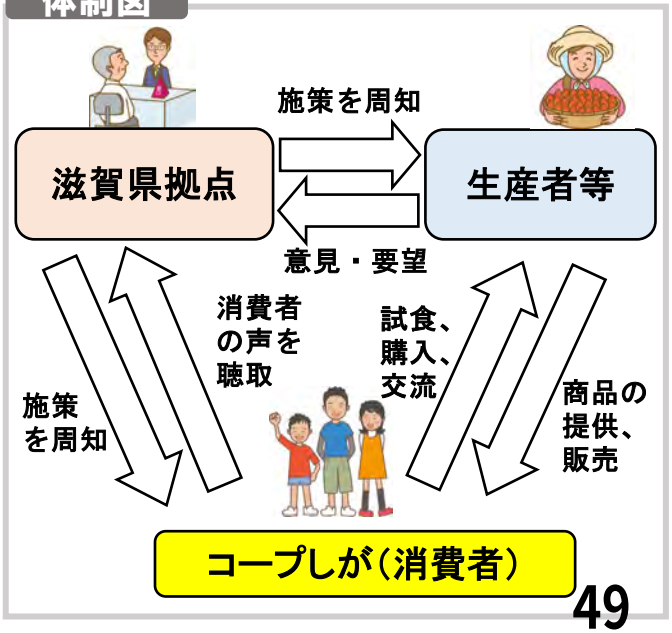
また、子供でも楽しく学べる「すごろく」のついたパンフレットなどを配布してＰＲ。来場された消費者や大学生等にみどり戦略について説明し、理解醸成に努めた。

○ 効果・成果、今後の方向性

拠点単独では、幅広い年代の消費者に施策等を一度に周知する手段の確保は難しいが、消費者団体との連携により効果的な周知ができた。今後も、関係機関の各種イベント等に積極的に参加すること等により、各種施策を消費者に対して効果的に周知。

滋賀県拠点の出展ブース

体制図



温室効果ガス削減の「見える化」の推進

環境負荷低減の取組に対する消費者理解の醸成を図るため「小さなことからコツコツと」温室効果ガス削減の「見える化」を消費者に浸透させる。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

（温室効果ガス削減「見える化」実証事業）

○ きっかけ・背景、課題の把握

令和４年、５年に行った温室効果ガス削減「見える化」の実証では、京都府内は１事業者（２日間）しか実施されず、消費者の環境負荷低減に関する理解醸成まで至らなかった。

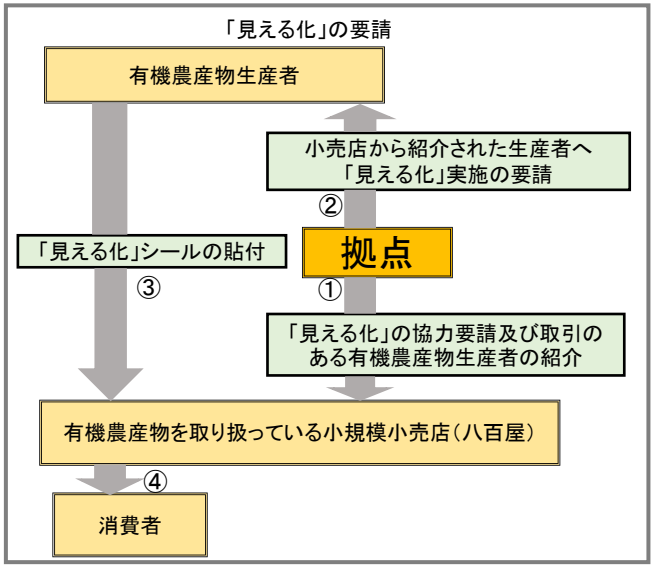
令和６年度に「見える化」の本格運用が始まるにあたり、「見える化」農産物を取り扱う店舗数を増やすことで、消費者へ環境負荷低減の取組を浸透させる。

○ 取組の内容

大手スーパー等でなく、農家と直接チャンネルを持つ小規模な有機農産物取扱小売店（八百屋）に職員が個別訪問。小売店に取引のある有機農産物生産農家を紹介してもらい、生産者に温室効果ガス削減の「見える化」の実証事業への参加を要請。また、小売店に対して「見える化」農産物の実証販売への協力をお願いした。

○ 効果・成果、今後の方向性

当拠点の働きかけにより、一部小売店からは「取組に興味がある」との前向きな反応があった。今後も「見える化」に参加する生産者・小売店を増加させ、消費者へ環境負荷低減の取組をアピールする。



「地図については京都伝統工芸大学様より提供」

令和５年度 【環境バイオマス】 近畿農政局 大阪府拠点

未来の食と栄養の専門家への「みどりの食料システム戦略」の浸透

管理栄養士を目指す学生に対し、環境との関わり合いを中心とした「みどりの食料システム戦略」講座と農業体験をセットにしたアプローチにより理解の醸成を推進した。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

近畿農政局と包括的連携協力を結ぶ羽衣国際大学には、管理栄養士を目指す学生が多く、食や環境・農業への関心も高い。

当拠点では、学生を通じて持続的な農業等への理解を広げるため、活動をバックアップしながら、「みどり戦略」の浸透を図る。

○ 取組の内容

農業・農村への理解を深めるための農業体験先を探していた学生に対し、拠点のネットワークを活かし府内の若手女性農業者を紹介。

食物栄養学科の学生に対し、「みどりの食料システム戦略」講義と意見交換を行い、各種情報・機会を提供。

学生による地元食材を使った加工食品の開発に協力した食品企業へ当拠点が訪問し、みどり戦略を普及。

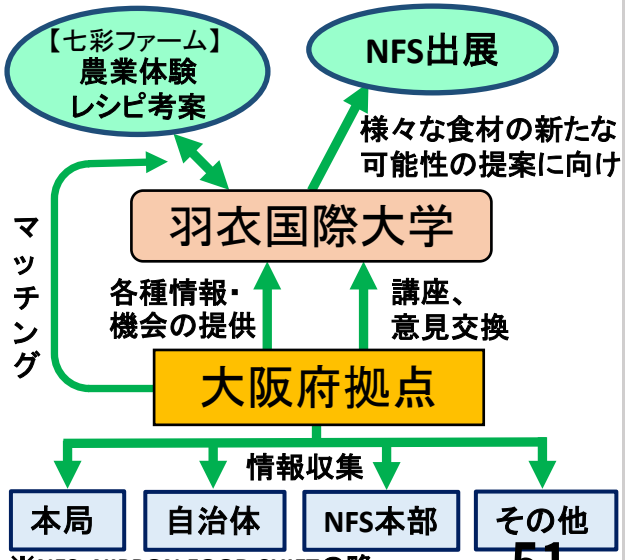
○ 効果・成果、今後の方向性

農業体験に参加した学生からは、府内農業者との交流が実現したことから、より農業と地産地消への理解が深まったと好評。

さらに、学生の興味・関心を惹起したことが「NIPPON FOOD SHIFT」への出展に繋がった。

今後、当拠点は周囲に大学等が多いことから、将来の食を担う学生に対し、「みどりの食料システム戦略」の講座と農業体験をセットにしたアプローチに努めたい。

体制図



※NFS：NIPPON FOOD SHIFTの略

都市近郊で貸農園を営む農業者同士のマッチング

消費者・企業に近い都市農業の強みを活かし、貸農園により農業体験を提供する農業者同士のマッチングを実施。農業者間の情報交換や、ノウハウの共有等の連携を推進。

○ 施策分類

担い手、都市農業

○ きっかけ・背景、課題の把握

環境にやさしい栽培方法の貸農園をオープンした若手農業者から、集客に苦労しているという情報があった。また、企業向けの有機農業貸農園を展開する先輩農業者から、「自社のノウハウを共有し、新しい都市農業を一緒に広げる仲間を作りたい」との意見を伺った。

○ 取組の内容

環境負荷低減と、消費者や企業を巻き込んだ体験型の都市農業の推進という共通の目的を持っている両者のマッチングを実施。

農業者と先輩農業者の貸農園を利用する企業等の意見交換を実施し、取組の意義等について認識の共有を図った。

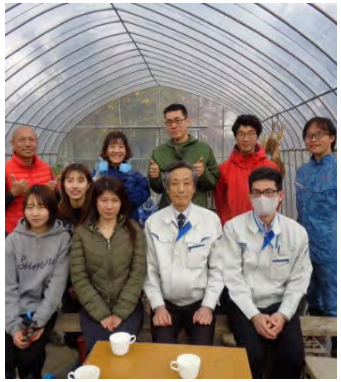
○ 効果・成果、今後の方向性

若手農業者は、先輩農業者の元でノウハウを学びながらアルバイトを行うこととなった。先輩農業者にとっては、若手農業者との繋がりができ、取組の輪を広げる足掛かりとなった。

若手農業者は、先輩農業者の貸農園を利用する企業との交流を通じて、ニーズを確信したことから、自社農園でも企業向けプランの新設を検討している。

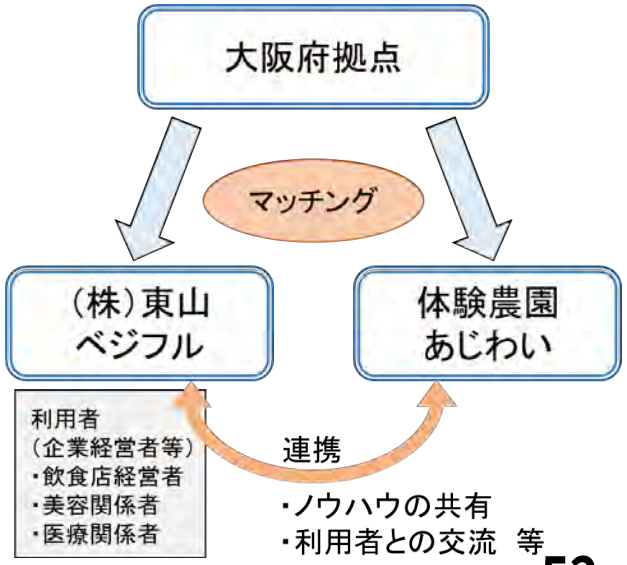
当拠点としても、引き続き当該農業者の取組をフォローしていく。

若手農業者の連携



貸農園の利用者を含めた意見交換

体制図



オーガニックビレッジを推進する市町との連絡会を開催

オーガニックビレッジの更なる取組拡大の支援、有益な情報を共有するための連絡会開催など、将来にわたり持続的な農業を目指す市町との連携を強化

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

有機農業などの持続的な農業の推進に向け、県内の先進的市町の取組のさらなる拡大を図るため、兵庫県と連携し、連絡会を構築。連絡会で優良事例の横展開や有益な情報を共有することにより、他市町の課題解決や取組の後押しを図る。

○ 取組の内容

有機農業産地づくり推進事業を活用する市町や、事業の活用を検討している市町、兵庫県等関係機関が参加する「オーガニックビレッジ連絡会」（兵庫県拠点事務局）を開催した。

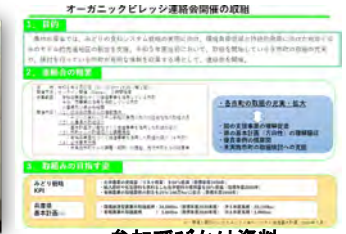
連絡会では、有機農業をめぐる情勢等の情報提供や事業を活用している９市町からの取組事例を紹介し、関係機関の中で情報共有した。

○ 効果・成果、今後の方向性

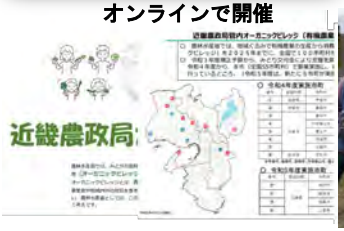
参加者から「近隣市町の取組内容、課題及び解決策を知ることができ、有意義であった」との感想を多くいただいた。

10月の兵庫県農林漁業祭において、「みどり戦略PRブース」を設置し、連絡会の参加市町と共同で有機農産物等のPRと販売を実施。引き続き、みどり戦略を推進するため各市町取組の充実と更なる掘り起こしを図る。

オンラインで開催



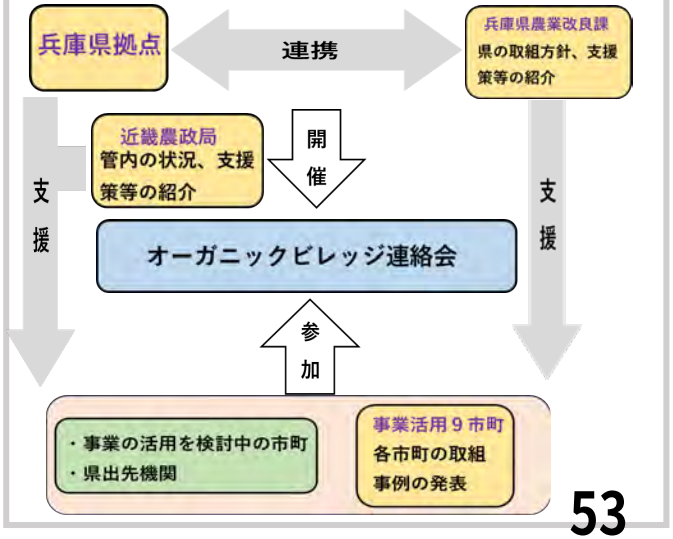
参加呼びかけ資料



生産技術環境課からの情報提供

兵庫県農林漁業祭でみどり戦略PR

体制図



女性農業者や大学生と連携した「食」と「農」の魅力発信等への取組

女性農業者や大学生と連携し、農業の魅力発信及び「食」と「農」の現状や施策の理解醸成、次世代への継承について考える交流会を開催。

○ 施策分類

担い手、新規就農、女性

○ きっかけ・背景、課題の把握

農業の活性化において、地域の中心となる女性農業者の取組を支援するとともに、次世代への「食」と「農」の継承を含めた地域農業の持続的発展に向け、女性農業者や大学生との交流を図る。

○ 取組の内容

農業の魅力発信と女性農業者の取組を支援するため、女性農業者・行政等関係者を参集し、「兵庫農業女子会（丹波市）」及び「ミニ農業女子会（神戸市北区）」を開催。のべ140名以上が参加し、講演会や女性農業者からの取組発表とともに、これからの農業に向けて意見交換を行った。

また、「食」と「農」の継承と持続可能な農業の実現に向けて、関西学院大学、神戸大学学生との交流会を開催。学生、女性農業者、学校関係者等のべ60名以上が参加し、我が国の食料・農業等をとりまく状況や女性農業者から農業の現状について説明後、学生からの質問に応える形で意見交換を行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

女性農業者等との連携により、日本の食をめぐる環境、農村・農業の抱える課題や解決に向けた取組を共有し、今後、より一層連携した取組が必要であることを相互に確認できた。

今後は、農業者間や消費者も交えた様々なチャンネルを活用して農業施策の理解醸成を図る。

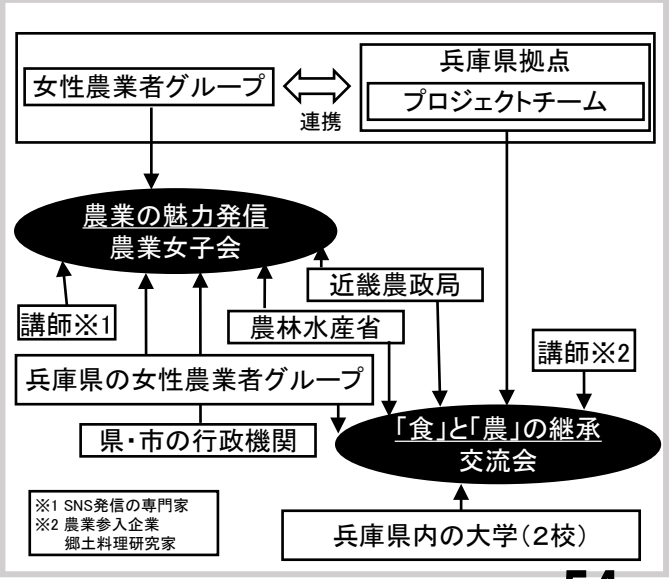
①女性農業者のグループ討議

③学生×女性農業者等との交流

②女性農業者の取組発表

④学生×女性農業者等との交流

体制図



「デジ活」中山間地域への取組支援

中山間地の棚田地域（紀美野町小川地域）におけるスマート農業技術の実証に向けた企業とのマッチング支援と活用可能な事業の紹介による棚田地域振興の取組

○ 施策分類

棚田地域振興、中山間地農業ルネッサンス事業・農村ＲＭＯ、デジ活中山間地域

○ きっかけ・背景、課題の把握

小川地域棚田振興協議会が令和５年度農山漁村振興交付金事業（元気な地域創出モデル支援）に採択され、令和５年６月「デジ活」中山間地域に登録されたことをきっかけに、デジタル技術を活用した地域づくりを行う取組への支援を開始。

○ 取組の内容

令和５年７月に実施した初回の現地訪問では、「デジ活」中山間地域への支援概要や棚田地域におけるスマート農業技術の実証事例等を紹介し、地域の課題、要望の把握に努めた。

同年12月に実施した２回目の現地訪問では、初回の訪問で把握した要望等を踏まえ、水田雑草対策装置として開発中の試作機を使用して、棚田地域等でスマート農業技術の実証を行っている長野県のベンチャー企業を紹介し、協議会と当該企業とのマッチングを支援。

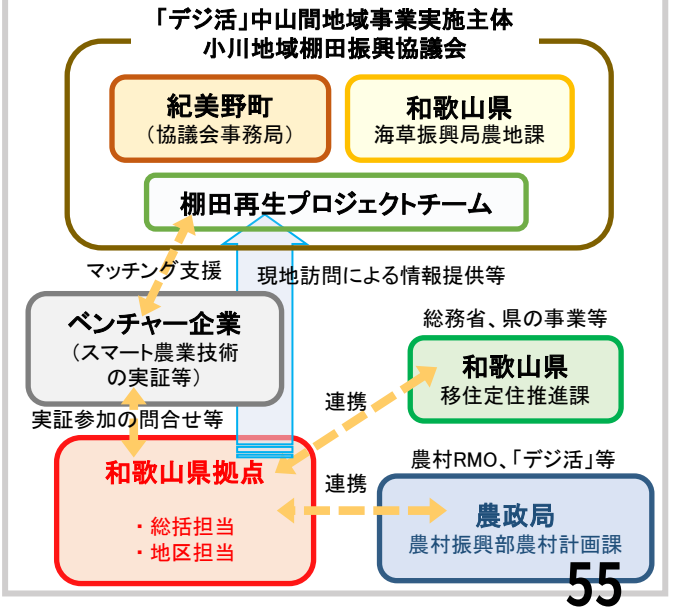
○ 効果・成果、今後の方向性

令和６年１月、企業、協議会関係者、県拠点が打合せ（Web）を実施し、協議会は実証への参加を申込むことが決定。スマート農業技術の導入、定着には時間がかかることから、引き続きフォローアップに努めていきたい。

令和５年12月25日に開催した第２回「デジ活」中山間地域の現地訪問における小川地域棚田振興協議会との意見交換の様子

地域住民が主体となった保全活動により、棚田の再生が進められている紀美野町小川地域「中田の棚田」（令和５年７月）

体制図



台風7号（令和5年8月）に係る本局と連携した被災地支援

台風７号による被害発生後、鳥取県の要請で中国四国農政局の職員（MAFF-SAT）を被災自治体に派遣し、災害トリアージ（被害状況、災害対応状況、体制等の把握）を実施。

○ 施策分類

災害

農林水産省では、豪雨等により被災した地方自治体を支援するため、MAFF-SAT（農林水産省サポート・アドバイス・チーム）を派遣している。

○ きっかけ・背景、課題の把握

令和５年８月15日に鳥取県に接近した台風７号は記録的な豪雨をもたらし、大雨特別警報が発令された鳥取市、八頭町等で甚大な被害が発生した。

特に被害の大きかった鳥取市と八頭町については、鳥取県から中国四国農政局に対し技術系職員の派遣要請があり、MAFF-SATによる災害トリアージ、ため池調査、緊急概査（被災状況の把握、被害額の算出等）を実施した。

○ 取組の内容

当拠点の職員（８月16日～９月６日：延べ19名）もMAFF-SATとして同行し、農政局本局の技術系職員が行う災害トリアージ、ため池調査、緊急概査をサポートするため、写真撮影、測量補助、議事要旨の作成を行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

今回は当拠点にとって初めての取組であったが、災害対応に貢献できた。

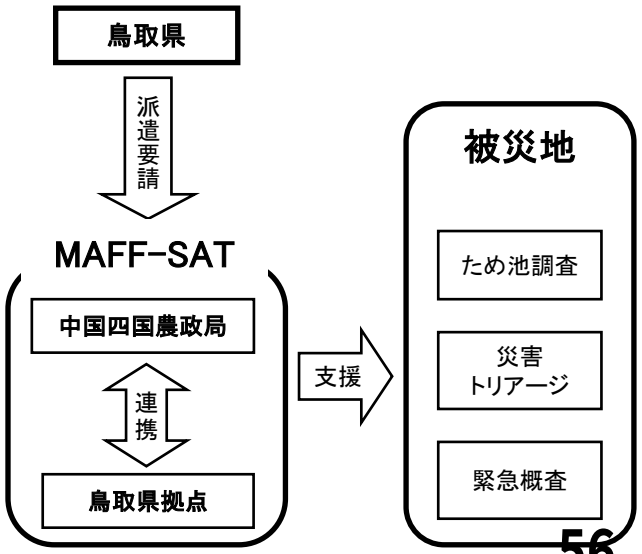
今後も農政局本局と地元に精通している拠点が連携し、災害トリアージの実施等、被災地支援を最大限行っていきたい。

ため池調査（鳥取市）

災害トリアージ（八頭町）

緊急概査（八頭町）

体制図



ディスカバー農山漁村の宝を通じた2団体のマッチングにより交流スタート

ディスカバー農山漁村の宝を通じて、お互いの活動に興味を持った鳥取市の「らっきょう女子会」と智頭町の「良菜会」のマッチングを行い交流開始。

○ 施策分類

都市農村交流、女性

○ きっかけ・背景、課題の把握

良菜会は、山間部の主婦等で構成され、食や農業に関する様々な取組を通じた地域の活性化に取り組み、企業や団体との交流に意欲的。

一方、らっきょう女子会は、海沿いのらっきょう農家（農業女子）で構成され、栽培技術の向上や新商品の開発などに取り組んでいるものの、収穫期の人員確保が課題。

両団体が、第９回ディスカバー農山漁村の宝の事例紹介を通じてお互いの活動内容に興味を持ったことが交流開始の契機。

○ 取組の内容

両団体のニーズを把握していた当拠点がマッチングに向けた働きかけを行い、交流の機会を設けることで合意。令和５年春、良菜会がらっきょう女子会を訪問し、ほ場でのらっきょうの収穫作業や根切り作業を見学・体験する交流会を開催。

当拠点では、交流会で各種農業施策（みどりの食料システム戦略等）の説明を行うとともに、交流会の様子をHPやMAFFチャンネル（良菜会とらっきょう女子交流会 (Youtube.com) ）で情報発信。

○ 効果・成果、今後の方向性

交流会の後、らっきょう女子会は、らっきょうの根切り作業を良菜会に委託し、収穫期の人手不足を解消。また、良菜会も賃金収入による所得の向上のほか、特に高齢者の労働意欲が向上。令和５年秋には良菜会がらっきょう女子会を再度訪問し、梨園での収穫等を体験。

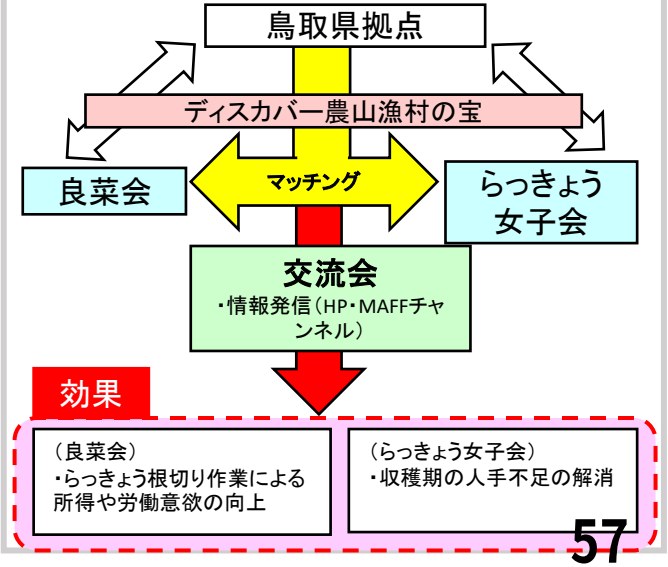
良菜会は、令和６年度もらっきょうの根切り作業を継続して受託する予定であり、現在、両団体は交流内容のさらなる拡充に向け検討中。

らっきょう根切りのポイントを教わる良菜会の皆さん

らっきょうの収穫作業を見学する良菜会の皆さん

らっきょう女子会と良菜会の皆さん

体制図



普通科高校生へ農林水産省の主要施策等を説明

県拠点が一体となって県内の普通科高校生に施策説明及び県拠点業務を紹介。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略、統計、食品表示、食料自給率、災害、農政の方向性

○ きっかけ・背景、課題の把握

令和５年６月に普通科高校である島根県立松江南高等学校（島根県松江市）では、１年生が市内の企業・団体の訪問する「SDGsと科学技術フィールドワーク」を計画。訪問先の企業・団体として、当拠点に依頼があった。

当拠点では、これまで農業高校等を中心に施策説明を行ってきたが、今後は普通科高校への展開も考えていたことから、拠点全体で取り組むこととした。

○ 取組の内容

まず、地方参事官室から、農林水産の組織、食料・農業をめぐる課題、みどりの食料システム戦略について説明を行った後、災害用備蓄品の展示やBUZZMAFFの紹介を行った。

次に、統計チームから水稲収穫量調査に係る脱穀作業体験、消費・安全チームから食品表示の見方の説明をした。

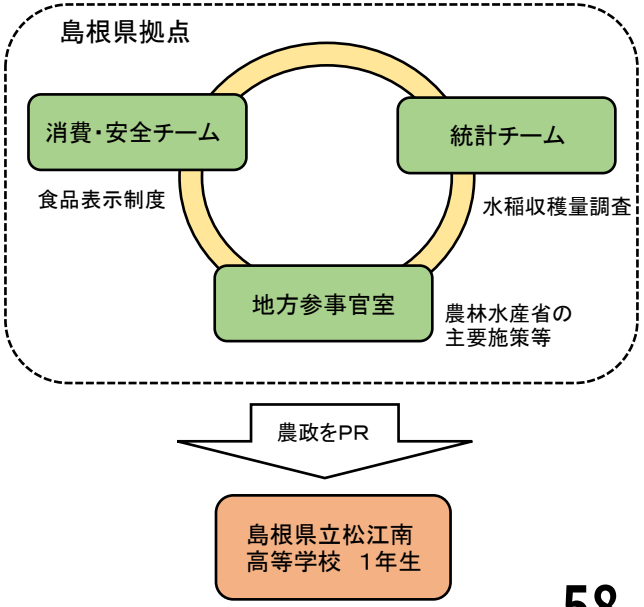
○ 効果・成果、今後の方向性

これまで、大学、農林大学校及び農業高校に対して施策説明を実施してきたが、農業に関心を持つ関係人口を増やし、新たな担い手を創出する必要があることから、今後は、普通科高校等に対しても積極的にアプローチしていきたい。

守屋地方参事官による講義

脱穀作業体験

体制図



学生フィールドワークの事前学習で農林水産施策をレクチャー

高校生が中山間地域でフィールドワークを行うことから、中山間地域の課題やみどりの食料システム戦略の基礎知識を出前授業においてレクチャーし、理解醸成を図った。

○ 施策分類

中山間地域振興、みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

令和５年６月、当拠点でも出展した「OKAYAMAつながる市」で繋がりのできた県内私立高等学校の教諭から、生徒が参加する中山間地域でのフィールドワークの実施について話があった。事前学習に協力する方向で協議し、出前授業を行うこととなった。

○ 取組の内容

同校に農業系の学科はなく、農家以外の生徒が中心であるため、中山間地域や岡山県の農業の状況に関する情報を持っていない。

このことを踏まえ、生徒自らの考えでフィールドワークに取り組めるよう、地域の現状や多面的機能といった情報のほか、「みどりの食料システム戦略」について、７月下旬に授業を実施した。

○ 効果・成果、今後の方向性

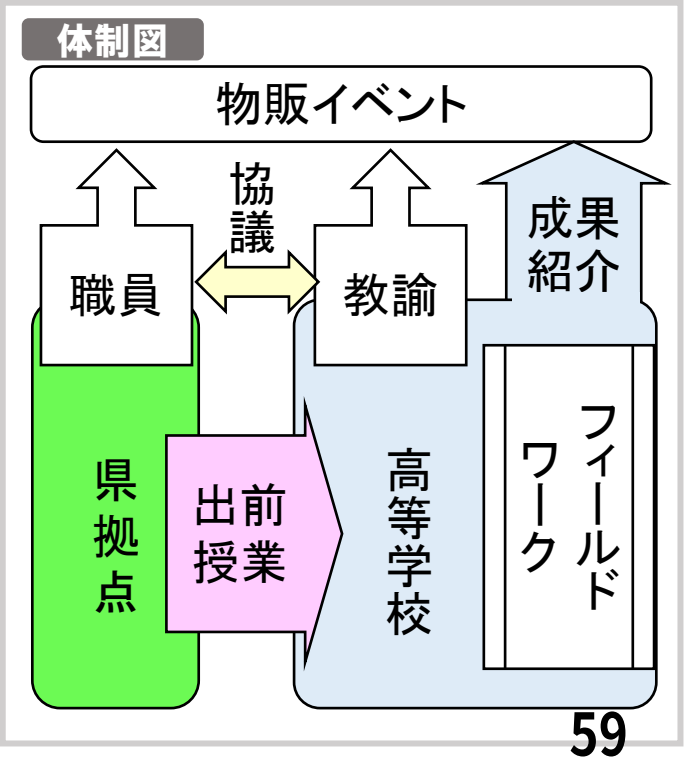
生徒にとって、授業は新鮮な内容であった上に、フィールドワーク（８月上旬）において、過疎化、高齢化などの現状を目の当たりにしたことで更に関心を持つきっかけとなった。

その後、参加した物販イベント（10月下旬）では、学習成果を紹介するなど、理解醸成が進んでいる。

今後も県拠点として、同校へのフォローも継続するほか、農業系を問わずあらゆる学校に向け、「みどりの食料システム戦略」の啓発を中心に働きかけを進めていく。

出前授業を熱心に聞く生徒

学習成果を紹介する様子



農業女子プロジェクト等の取組

次期女性役員候補の掘り起こしに繋がる女性農業者のネットワークを構築し、女性が活躍できる環境を整備するため、広島県内の農業女子の交流会等を実施。

○ 施策分類

女性

○ きっかけ・背景、課題の把握

農業女子ＰＪメンバーと意見交換を行うなか、県内のメンバーと交流したいという意見を多く頂き、農業女子同士のネットワークづくりの必要性を痛感。

○ 取組の内容

当拠点では、第５次男女共同参画基本計画に定める女性登用の目標達成に向けて、関係機関と積極的に意見交換を実施してきた。

女性役員候補が少なく、目標達成が不透明な状況を踏まえ、次期女性役員候補の掘り起こしに繋がる女性農業者のネットワークを構築するため、広島県内の農業女子ＰＪメンバー26名を中心に交流会等を実施。

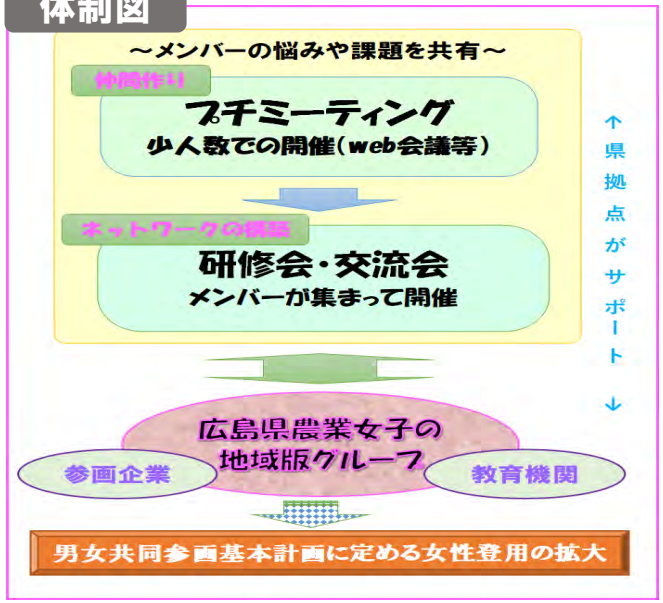
女性農業者は、農業を営む上での悩みを共有し、相談する機会が少ないことから、それぞれの農業経営発展の一助とするため、プチミーティング（６月、８月）、研修会・交流会（講演：やさいバス広島の「これまで」と「これから」11月）を開催。

○ 効果・成果、今後の方向性

プチミーティングや研修会・交流会の開催を重ねることで、メンバー同士のコミュニケーションを図ることができ、今後は広島県農業女子のネットワークの構築（地域版グループ「スピンアウト」）を目指す。また、女性農業者の情報共有の場を通じて、農業委員会等への女性参画の意識を高め、女性登用目標達成の実現を図る。

プロジェクトメンバー交流会

体制図



みどり戦略における「見える化」の取組

環境負荷低減の「見える化」の取組に関心を示した事業者にＷＥＢ会議等により課題を明確にするなどサポートした結果、県内で６事業者が「見える化」の取組に参加。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略
（温室効果ガス削減「見える化」実証事業）

○ きっかけ・背景、課題の把握

みどり戦略を消費者に理解してもらうツールとして「見える化」は重要な取組だが、中国四国農政局管内には取組を行っている事業者が無いため、参加する事業者の掘り起こしを行う必要。

○ 取組の内容

令和５年５月に開催されたＧ７広島サミットで、本省・本局と連携して広島県農産物の「見える化」の展示の働きかけを行うとともに、事業者に「見える化」を積極的に周知。

「見える化」に関心を示した事業者については、本省と連携し、ＷＥＢ会議等を随時開催し、事業者の課題を把握し、算定シートの作成に必要なデータの収集方法等を指導するなど「見える化」の実現に向けたサポートを行い、取組を促進。

○ 効果・成果、今後の方向性

県内の６事業者が「見える化」に取り組むことになっただけでなく、小売店に加え、外食事業者や加工品での取組が進むなど、消費者が「見える化」の商品に接する機会が増え、消費者がみどり戦略に対する理解を深める環境が整備された。

今後も、当拠点主催のイベント等を活用した情報発信を積極的に行い、事業者に「見える化」の取組を促すとともに、消費者への理解の醸成を図る。

お米

藤本農園（庄原市）
店舗販売、インターネット販売

レタス

モスバーガー（外食）
広島県内の店舗で販売

ミニトマト

グリーンファーム沖美（江田島市）
広島市内のスーパーで販売

ぶどう

うねいファーム（福山市）
インターネット販売（加工品）

地域計画策定に向けた取組

地域計画を円滑に作成するため、県内市町の取組状況や課題の聞き取りなど、進捗状況の「見える化」を行い、関係者が共通認識の下で、効率的な推進による地域計画作成につなげる。

○ 施策分類

地域計画

○ きっかけ・背景、課題の把握

これまで集落単位での話し合いを基本に、人・農地プランの作成が進められていたが、実質化は遅れていた。

今後、地域計画を円滑に作成するためには、市町の地域計画策定状況を聞き取り、進捗状況を把握し、地域の実情に応じた対応方針に基づく地域計画を作成することが必要。

○ 取組の内容

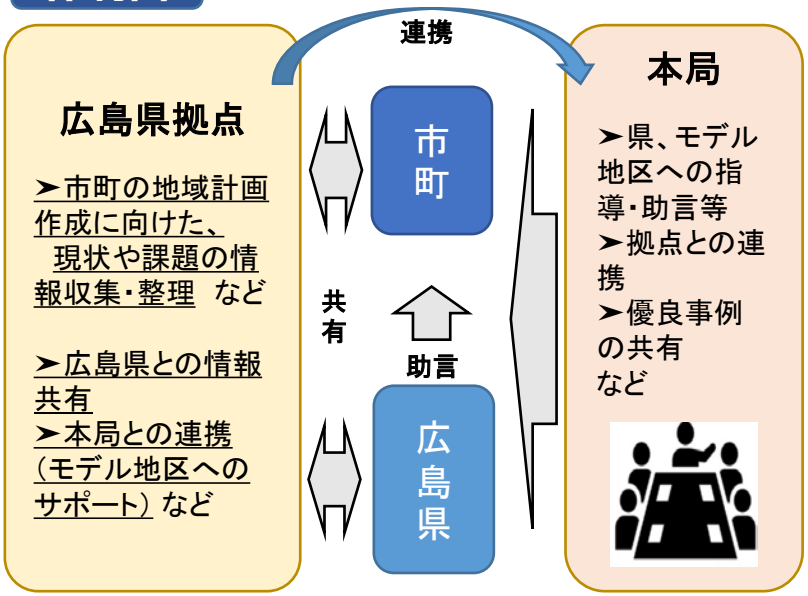
施策説明等で市町担当者と意見交換する中で、課題や今後のスケジュール等を把握。地域計画策定における進捗状況の「見える化」に取り組み、その情報を県に共有して、県が地域別の対応方針を作成し、優先順位を考慮しながら地域計画の推進が円滑に進められる体制を整備。

地域計画の作成の取組が進んでいる市町にあっては、本局と連携し、モデル地区として取組内容を聴取し、県と情報共有を図りながら、地域計画の作成が停滞している市町担当者に対し、地域計画作成のヒントを提供した。

○ 効果・成果、今後の方向性

地域計画の進捗状況を「見える化」することにより、スケジュール感を持って、注力すべき市町を特定し、関係者が共通認識の下で、効率的に推進することで期限内の地域計画作成に寄与する。

体制図



➢市町からの具体的な聞き取り内容

- 基本構想の確認、推進協議会の設置
- 地域計画の区域・目標地図素案の作成
- 協議の場の設置
- 地域計画策定における課題 など

女性農業委員登用推進の働きかけから繋がった女性農業者の輪

女性農業委員との意見交換を契機に、女性農業者をリレーで繋ぐ取組（意見交換）を実施し、イベントや交流会へと発展。

○ 施策分類

女性

○ きっかけ・背景、課題の把握

農業委員女性登用の働きかけを行うため、下松市農業委員会を訪問した際、女性農業者との意見交換の場をさらに設ける必要性があることで意気投合。

これを契機に、女性農業者の紹介リレーによる、当拠点と女性農業者の意見交換を実施することとなった。さらに、意見交換の過程で出された意見・要望・アイディア等をもとにテーマを設定し、イベントや交流会を企画・開催。

○ 取組の内容

同市の女性農業委員を起点に、次の女性農業者を紹介していただく方法でリレー式の意見交換を開始。

意見交換が進む中、地産地消を意識した手作り弁当を持ち寄るランチミーティング「お弁当の日」（６月13日）や、農作業に役立つスマート農機などを持ち寄り紹介し合う「便利グッズを持ち寄っての交流会」などの企画が持ち上がり、繋いだ女性農業者だけでなく、関係機関等を交えた取組へと発展。

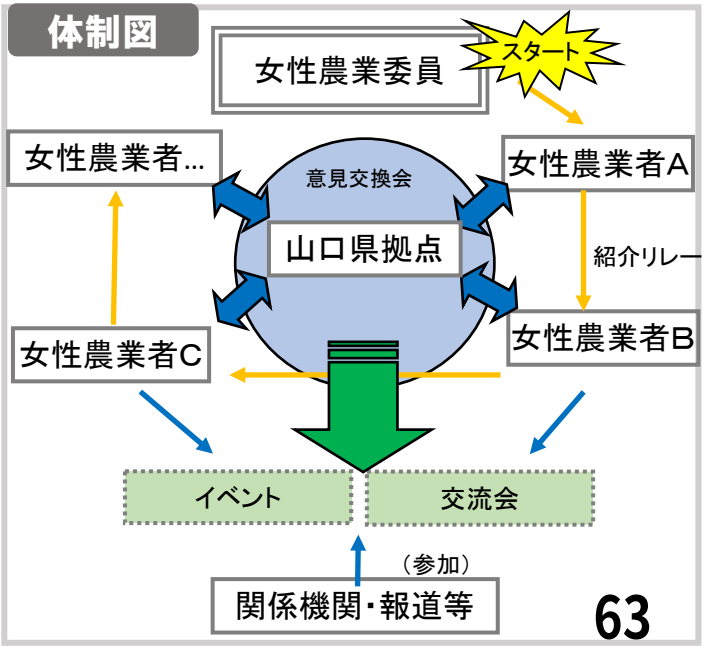
○ 効果・成果、今後の方向性

「お弁当の日」イベントは、地元新聞社等にも取り上げられ、下松市はもとより、近隣の女性農業者等からも注目。便利グッズ交流会も、市をまたいだ取組となり、女性農業者の交流に貢献。

今後は、もっと大きな輪となるよう、取組を拡大して推進していく。

ランチミーティング「お弁当の日」

便利グッズ持ち寄っての交流会



みどり戦略推進チーム（teamみどり）による拠点独自の取組を展開

みどり戦略のより一層の推進に向けて県拠点内にみどり戦略推進チーム（teamみどり）を結成。
有機農業の実態把握やイベントでの情報発信など、多岐にわたる取組を拠点一丸となって推進。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

みどり戦略において有機農業の推進が掲げられているものの、県拠点では、県内の農家における取組状況等について十分に把握されていなかったため、所内の企画会議の場において（５月）、取組を推進するには、まずは地域の実態把握が重要との機運が高まり、県拠点一丸となったみどり戦略推進へ発展。

○ 取組の内容

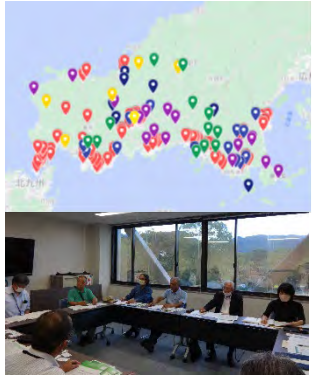
地方参事官室各地区から担当を１名ずつ選出して「teamみどり」を結成。トップダウンでなく、職員が主体となってアイディアを出し合い、有機農業の実態把握や、みどり戦略のＰＲ等を効率的・効果的に行うため県拠点独自の取組を企画・実践。

有機農業実践者や有機農産物コーナーがある販売店舗等のマップ作成や、有機農業者、販売店等との意見交換、各種イベントにおけるパネル展示やアンケートを行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

一連の取組やアンケートを通じ、みどり戦略の認知度や有機農産物の取扱量を一層伸ばしていく必要性などの課題が見えてきた。

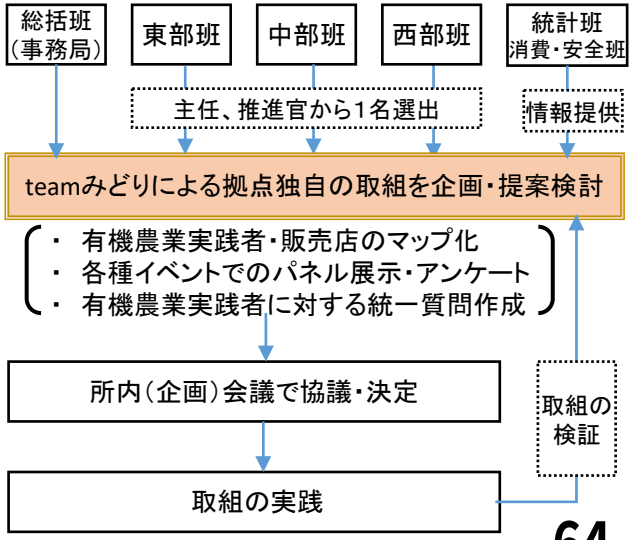
今後はホームページでの生産者紹介などを予定しており、引き続き様々な取組を実施し、みどり戦略の推進を一層図っていく。



有機マップ作成、意見交換

アンケート、パネル展示

体制図



担当地区間の迅速な情報共有と対応で異業種のマッチング実現

山口県産農産物や米粉等を使用した新メニューを検討中の飲食店と、県内で有機栽培に取り組む生産者等とのマッチングを県拠点が支援。異業種者等双方のwin-winなコラボが成立。

○ 施策分類

地産地消、その他（生産振興・技術対策）

○ きっかけ・背景、課題の把握

県内産農産物の食材をメインに提供する飲食店（山口食彩店 登録店舗）と意見交換を行った際、新たなメニュー開発を行うに当たり、食材となる県内産農産物等でコラボできる調達先について相談を受け、拠点内で対応を協議・調整。

○ 取組の内容

飲食店からの相談内容を拠点内で共有し、食材となる県内産農産物等でコラボできる調達先として各地区の情報を持ち寄り検討。

生産者等の中から販路の拡大を目指すブルーベリーの有機栽培生産者と、安心安全にこだわる米粉パンの製造業者をピックアップし、それぞれの事業者へ情報提供。

マッチングの結果、双方に有益となる関係が成立。

飲食店は、ブルーベリーを使用したスムージーと、米粉フランスパンで作ったフレンチトーストが完成し、商品化。

○ 効果・成果、今後の方向性

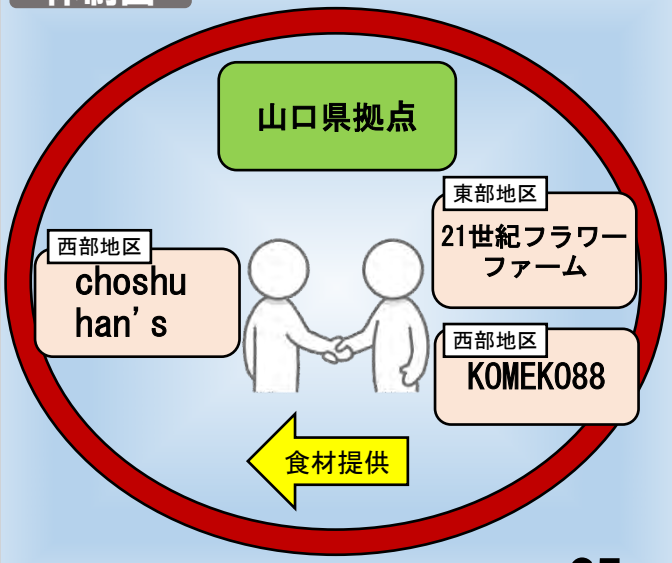
意見交換での相談内容を拠点内で共有・協議し迅速に対応することで、異業種者双方が満足してもらえるマッチングを実現。

今後も更なる案件形成を意識し、意見交換や拠点内連携に注力。

提供食材を活かして新レシピを考案（ﾌﾞﾙｰﾍﾞﾘｽﾑｰｼﾞｰ、米粉ﾌﾚﾝﾁﾄｰｽﾄ）

食材を提供（21世紀ﾌﾗﾜｰﾌｧｰﾑ（上）、KOMEKO88（下））

体制図



徳島県、4Hクラブ及び県立農業大学校との担い手育成に向けた連携

徳島県庁に働きかけ、４Ｈクラブ（農業青年クラブ）と徳島県立農業大学校とが担い手育成に向けて開催する意見交換（ワークショップ）に県拠点も参加し農業への理解醸成を図る。

○ 施策分類

担い手

○ きっかけ・背景、課題の把握

当拠点は平成28年以降、若年農業者との交流を深めるため、４Ｈクラブの活動に参加。

近年、農業法人の増加によって雇用就農の環境が整ってきたことから、全国的には非農家出身者の就農率が上昇しているものの、県内では、次世代の農業を担う農業大学校生の中には、就農に向けた不安があり担い手育成につながっていないことから、 ４Ｈクラブと連携し担い手育成に取り組むこととした。

○ 取組の内容

毎月の４Ｈクラブ定例役員会において、県拠点から予算説明や「みどりの食料システム戦略」などの情報提供や意見交換により関係性を構築しつつ、次世代に向けた農業への理解醸成を図るため、４Ｈクラブと農業大学校生とのワーショップに参加した。

○ 効果・成果、今後の方向性

農業大学校生が農業に携わることに対して疑問に思っていることを農業青年者らが農業体験談を交えて回答するなどして活発な討議が繰り広げられた。

ワークショップでの意見交換を通じ農業大校生の就農への意識を促すことができるよう、継続的に取り組むこととしている。

４Ｈクラブの定例役員会での情報提供

４Ｈクラブと農大生のワークショップに参加

体制図

担い手育成に向けた4者連携

徳島県拠点　徳島県

4Hクラブ　農業大学校